

全国高等学校長協会ヒアリング概要（10月22日）

【全体について】

- 中身は大変よくできていると思う。この審議まとめ素案を読むと施策の背景などが理解できるが、一部分だけを切り取って見てしまうと正しい理解が得られない。校長先生、教育委員会などに対してワーキンググループでの議論の趣旨についての説明を丁寧に行い、周知していくことが必要である。
- 保護者の理解が得られるかなどの実際の課題を捨象して高い理想だけを掲げるだけでは施策は現実的に進まない。

【普通教育を主とする学科の種類の弾力化・大綱化について】

- 例示された新たな学科で学んだことが卒業後にどのように繋がるかが見えにくいのではないか。高校卒業後の進路と各学科での学びをどのように接続させていくかが重要であり、新たな学科を卒業後の大学等との連携や接続について明確化していく必要がある。例えば、スーパーサイエンスハイスクールの学校では、普通科において理系の大学に進学することが主となるが、そのようなものが見えてくると良い。高等学校で全てが完結するのではないため、卒業後の進路を見据える必要がある。
- 子供たちが自分のやりたいことを高校時代に探すことを考えると、どうしても普通科志向が強くなる現実があるのではないか。
- 多様な学科を新設する場合、当該学科に対して人的、物的な支援が不可欠になる。その裏付けについても検討する必要がある。

【スクール・ポリシーの策定及び運用について】

- 3つのスクール・ポリシーを策定することは適切。目新しいものと言うよりは、従来やりきれていなかった部分、注視されてこなかった部分にしっかり取り組むという方向性だと理解している。高等学校はこれまでも改革に取り組んできたが、何をもって変わってきたのか見えにくい部分があると感じている。
- グラデュエーション・ポリシーについては、例えば卒業に必要な単位が何単位であるかというような狭い範疇で捉えられてしまうのではもったいない。グラデュエーション・ポリシーをどのように捉えるかについて、高等学校にも分かるように示していくことが必要。
- 本来は、カリキュラム・ポリシーを基にして教育課程を編成することが望ましい。一方で、令和4年度からの新たな教育課程に向けて各学校では準備を進めており、今年度中に多くの学校では決定されることを考えると、今すぐにスクール・ポリシーの策定に取り組まなければならないが、それでも趣旨の徹底、校内で具現化するまでには一定の時間を要することも事実である。他方、策定を先送りすることは良いことではない。

- 編成された教育課程を固定的なものとし、既存のものをまとめるだけの形で、その裏付けとしてスクール・ポリシーを策定するとなると、本来の趣旨と違ってしまうことになることを懸念している。時間を置くことは望ましくないが、設置者次第としつつ、各学校が自ら動くようにすることが必要ではないか。その上で、3年間で教育課程が一巡したときに見えてくることもあるのではないか。
- 東京都では各高等学校でグランドデザインを作って、どのような生徒を育てていくのかを検討している。こうした各都道府県における動きを踏まえる必要がある。
- 公立の場合は、教育委員会からの指示を基にして各高等学校が動いていく部分も大きいのではないか。まずは設置者に対してスクール・ポリシーの趣旨を理解してもらう必要がある。

【中山間地域や離島等に立地する高等学校における多様な教育資源の活用について】

- 中山間地域等の問題として、高校がその地域から無くなるということが非常に厳しく受け止められており、地域に根ざしている高等学校は「準義務教育」的な位置付けがなされている。統廃合の議論も当然生じるが、丁寧に扱う必要がある。
- 中山間地域等では、今後ICTを活用し遠隔授業を取り入れることにより、今以上の充実した教育活動を推進することが可能となるが、配信側・受信側双方の教室で生徒の様子・体調や理解度等を適切に確認・判断しながら指導できる体制を整備することが当然必要となる。